

## 2022 年度「NPO 法人・礎の石孤児院」活動報告書

2020 年度～2021 年度と、コロナウイルスの感染拡大により、さまざまな活動の制約を受けましたが、2022 年度においては少しずつパンデミック前の生活に戻り始めました。

特にフィリピンの就学支援の子どもたちは、パンデミックのために学校が休校となり、2 年間にわたって自宅でオンライン授業を続けていましたが、2022 年度は学校での対面授業が再開され、学校に通うことができるようになりました。

ザンビアでは首都ルサカ郊外に購入した土地に、就学支援のためのセカンダリースクール（中学・高校）の建設をスタートさせました。

また、ザンビアでは韓国の、国際 NGO「グッドネイバーズザンビア」様とのかかわりが開かれ、HIV 孤児への就学支援・セカンダリースクール建設のための支援等の協力をいただいています。

一般財団法人「ゆうちょ財団・国際ボランティア支援事業部」様から「ザンビア・ルサカ市ゴンベ地区の HIV 孤児のため」1,357,272 円、独立行政法人「国際協力機構（JICA）」様から「世界の人々のための JICA 基金活用事業」として「ザンビア HIV 孤児のための初等教育及び給食支援事業のため」828,930 円、

公益財団法人「東京コミュニティ財団・あおぞらファンドクリエーション基金」様から「フィリピン就学支援児への学用品購入のため」5 万円、の助成金をいただくことができました。

事務局では毎月インターネット・ミーティングを行い、インターネットを用いての広報活動を強化し、ホームページ、Facebook、ツイッター、インスタグラム等の SNS、ニューズレター、パンフレットなどを通して、礎の石孤児院の働きを多くの方々に知っていただいています。。

### \* 国内の活動 \*

4 月 \* 礎の石孤児院理事会をオンラインで開催し、総会の議案を承認した。(4/16)

---

5 月 \* 第 21 回 NPO 法人「礎の石孤児院総会」をオンラインで開催した。(5/28)

---

6 月 \* 都内の某高等学校で高校 3 年生（約 300 名）を対象とした礎の石孤児院の講演会が行われ、木原真副理事長が講演した。(6/4)

---

7 月 \* 長野県白馬で行われたキャンプで礎の石孤児院の報告会が行われ、ザンビアカンボジア、フィリピンの現地責任者がオンラインで報告を行なった。

---

---

10月 \* 都内の某中学高等学校のクラブ活動で、真境名総主事と秋元ヨハネスタッフが礎の石孤児院について話をした。

---

11月 \* 真境名総主事と事務局スタッフ4名は、岡山の児童養護施設を訪問し、施設を見学し施設長にお話を伺った。(11/25)  
\* 千葉にある某短期大学で礎の石孤児院の講演会が行われ、イザヤ木原副理事長と秋元ヨハネスタッフが講演し、約30名の学生の方々が参加した。(11/26)

---

## 2023年

1月 \* 東京（高円寺）で礎の石孤児院の新年チャリティコンサートが行われ、カンボジア孤児院、ザンビア HIV 孤児の子どもたちもオンラインで参加した。  
約51万円の募金が集まった。  
\* ブラジル孤児院の 松本弘子さんが日本に一時帰国した。

---

2月 \* ザンビア孤児院の ムタレ桜子さんが日本に一時帰国した。  
\* ムタレ桜子さんが東北地区（仙台市）と関東地区（東京）でザンビア孤児院報告会を行った。

---

3月 \* ムタレ桜子さんが長野県白馬で行われたキャンプの中で、ザンビア孤児院報告会を行った。  
\* ムタレ桜子さんが関西地区（伊丹市）、中国地区（広島）、中部地区（四日市市）でザンビア孤児院報告会を行った。  
\* NPO 法人「青少年ワールドサポート21」様のチャリティ・ディナーに招待され、小野島理事と事務局スタッフが出席した。  
\* 日本に一時帰国していたブラジル孤児院の松本弘子さんが ブラジルに戻った。  
\* 日本に一時帰国していたザンビア孤児院のムタレ桜子さんさんが ザンビアに戻った。

## **\* カンボジア孤児院の活動 \***

### 【5月】

- \* 男子2名が、職業訓練校で4か月間のエアコンの修理の学びを受ける事になる。
- \* 前田スタッフのカンボジア免許証の更新を行う。
- \* 孤児院卒業生の M が差入れを持って孤児院を訪問してくれる。
- \* プノンペン市から4人の方々が視察に来られる。

- \* 学校で IT デザインを学んでいた男子 1 名は学校から会社を紹介され、その会社に継続して通うことになる。
  - \* (コロナの影響で、暫くの間、オンライン授業だったけれど) 大学生女子 1 名の対面授業が再開される。
- 

#### 【6月】

- \* プノンペン市から孤児院登録と NGO 更新のためのサポートレターを受け取る。。
- 

#### 【8月】

- \* 孤児院登録更新のため、社会福祉省とプノンペン市の方々の視察を受ける。
- 

#### 【9月】

- \* 小学生の女子 2 名がメソジストスクールに転校する。(学校の場所が遠方へ移転して、通学が難しくなった為)
  - \* NGO 更新のため、社会福祉省とプノンペン市の担当の方々の視察を受ける
- 

#### 【10月】

- \* 大学生の女子 N は後期試験に合格し 10 月からプノンペン大学日本語学科 3 年生になる。
  - \* 社会福祉省の、孤児院登録更新完了。(2025 年まで)
  - \* 孤児院がある地区の社会福祉課より 3 人の方々が来られて、孤児院内の視察が行われる。
  - \* NGO 更新のための会議が社会福祉省で行われ、NGO 更新の最後の確認が行われ、更新手続きが終了する。
- 

#### 【11月】

- \* 社会福祉省から新しい NGO 更新書類を受け取る。(2025 年 10 月 28 日まで)
- 

#### 【12月】

- \* 子どもたちとスタッフは、3 年ぶりに地方に出かけて、自然に親しむ。
- 

#### 【2023 年 1 月】

- \* メソジストスクールは新学期が始まる。全員が進級して、新しい学年での授業が始まる。
  - \* 仮採用スタッフとして一人の人を 3 か月間受け入れる。(その後、2023.10 月現在、正式スタッフとして、活躍中。)
- 

#### 【2023 年 2 月】

- \* 男子 2 名が孤児院を自立するため、移動手続きを政府機関の方々同席で行う。
- \* プノンペン大学で、日本とカンボジア友好 70 周年のイベントがあり、子どもたちと参加する。

【現在孤児院で生活している孤児】

男子 7 名 女子 9 名 計 16 名

(内訳) 未就学児		女子 1 名
幼稚園		女子 1 名
小学生	男子 1 名	女子 4 名
高校生	男子 2 名	女子 1 名
大学生	男子 1 名	女子 1 名
職業訓練生他	男子 3 名	女子 1 名

**\* ブラジル孤児院の活動 \***

4月～12月 \* 南米の各国の孤児院事情や法律についての調査・報告

2023 年

1月 \* 日本へ一時帰国する。  
東京の高円寺で報告会を行う

3月 \* 長野県白馬で報告会を行う。  
\* 日本への一時帰国を終え、ブラジルに戻る

その他の活動を行ないました。

**\* ザンビア孤児院の活動 \***

**Cornerstone Of Hope 活動**

2022 年 4 月

- ① 昨年度から引き続き、**With The World**(オンライン国際交流授業 (グローバル探究学習や海外研修・交換留学を提供している)株式会社主催のオンラインスタディツアーが、1ヶ月に1～2回のペースで行われている。ザンビアの生徒と日本の生徒がそれぞれの文化を紹介し合う、とても楽しくユニークな取り組みとなっている。
- ② 精神科医のボランティアによる、教員対象の社会心理学の基礎コースを開始した。家庭に問題を抱える多くの生徒たちを精神的にサポートするための一助としていく。
- ③ 会計士として働いてきたスタッフが、教員免許を取得するための助成を開始。学校休校期に通学し、4年後の免許取得を目指す。

## 5月

- ① 韓国の国際 NGO グッドネイバースザンビアからの支援を受け、製粉場を2つの教室にする改築工事を行い、完成した。
- 

## 6月

- ① 5～7年生が招待されて国際空港見学。機内食の調理現場等も訪問した。
  - ② フランス人ボランティアの帰国に伴うお別れ会。生徒たちは記念品(粘土細工)とお別れのメッセージを準備。
  - ③ 幼児期の事故により片足を失った生徒の松葉杖を新しいものに交換。また、将来的に義足をつけるための病院診察なども行った。
- 

## 7月

- ① 日本の NGO Beautiful ZAMBIA (スラムのゴミ問題に取り組む)の日本人スタッフが来ザし、訪問を受ける。昨年度は Cornerstone Of Hope(以後 COH)の学校を提供して、生徒の保護者(女性)を対象にした活動を行なったが、当方とはオンラインでのやりとりしかできていなかった。今回も、女性たちにプラスチックゴミを持ってきてもらい、代わりにドレスアップ(衣装は提供される)してポラロイド写真を撮影する取り組みが実施された。
  - ② 7年生の全国模試
  - ③ 改築された教室に机/椅子等を搬入※ 購入費用はグッドネイバースによるご寄付
- 

## 8月

- ① JICA「世界の人々のために基金」担当者が見学に訪れる。
  - ② 改築した教室の引き渡しセレモニーを主催
  - ③ グッドネイバースと COH、建設会社の中高等学校建設に係る 3者契約書署名式を主催
- 

## 9月

- ① 北海道大学院生が訪問し、リサーチのために子ども達へのインタビューを行う。
  - ② 男子生徒が性被害を受けたため、病院、警察、裁判所等の対応をとる。
  - ③ JICA ザンビアの次長の離任挨拶及び、後任者の紹介のために訪問を受ける。
  - ④ 中高等学校建設工事開始
- 

## 10月

- ① With The World と zoom ミーティング。今後の活動に関する確認
- ② 2019 年来ご支援を頂いている NPO SANASANA(サーナサーナ)さんの活動紹介のオンライン企画で講演

- ③ COHにて独立記念日のお祝い及び、7年生の卒業式を行い、その様子をInstagramでライブ配信
  - ④ 7年生の国家試験受験
- 

#### 11月

- ① 7年生の国家試験終了
  - ② S教員の新規採用試験を行い、3人を採用
  - ③ フランスの食品会社 Parmalat より、100%ジュースや牛乳のご寄付を受ける。
- 

#### 12月

- ① 日本、ザンビアからのびボランティアにより COH でクリスマスパーティー開催
  - ② 2023年新規受け入れの孤児達のリサーチ、家庭訪問等
  - ③ 新規採用教員へのオリエンテーション
- 

#### 2023年1月

- ① 新学年の開校準備。9日月曜日に開校予定だったが、準備資金が十分でなく、16日に延期。最終的には何とか開校に漕ぎ着ける事ができた。
  - ② 韓国から数家族が学校訪問。バイオリンの演奏や韓国のポップミュージック + ダンスなどが紹介されて、COHからもお返しに伝統ダンスの披露。
  - ③ 助成金を頂いている郵貯財団国際協力報告会にて、30分ほど写真等をお加えながら活動報告。
  - ④ インターン希望の大学生への zoom インタビュー
- 

#### 2月

- ① With The World 主催のパネルディスカッション「異文化におけるリーダーの在り方」に講師として参加
  - ② 16日～日本一時帰国 宮城県、東京都で報告会
- 

#### 3月

- ① 兵庫県、広島県、三重県で報告会。  
3月16日ザンビア帰国
- ② JICA「世界の笑顔のために」プログラムを通し、日本の幼稚園からスモックのご寄付を受け取る。
- ③ Youtube 配信を開始

## \* フィリピン孤児院の活動 \*

### 【就学支援の働きに関して】

フィリピンでは引き続き礎の石教育プログラムを通して、恵まれない子どもたちのための就学支援の働きをしています。

2022 年度の授業は昨年 8 月 22 日から始まりました。

2 年間のオンライン授業の後、8 月から学校での対面授業が週 3 日（週 2 日は自宅でオンライン授業）で再開し、10 月からは週 4 日、11 月からは週 5 日となり、現在は感染防止対策を取りながら、校内行事を含めパンデミック前の学校生活に戻っています。

今年度の授業は 2023 年 7 月 7 日までの予定です。

2022 年度は 36 名の子どもたちの就学支援を行いました。

そのための必要／学校登録費、授業料、学用品日等、総額 6209.82 ドルを、2023 年 1 月 10 日（3165 ドル）と 2 月 1 日（3045 ドル）の 2 回に分けて送って頂くことができました。

礎の石教育プログラムを通して、親がいても教育を受けさせる経済が無い家庭や、教育の重要性を理解していない家庭の子どもたちを経済的にのみならず精神的にサポートしています。

実際にスアワンの就学支援生ジャジール(Jasiel)の両親は彼女に学校をやめて働くことを強要しました。彼女はスアワン担当で教師であるグレイスに助けを求めましたが、彼女は父親から酷く怒られ、さらに父親はグレイスに、娘に対する支援をやめるように言って来ました。このように教育は必要ないと考える人たちはまだ多くいます。

私達は人々の伝統や信念を大切にしながら、この状況を変えていく努力をしています。

それゆえ卒業式や進級式で子どもたちの晴れ姿を見た親たちは、子どもたちが教育を受けられたことを感謝し喜んでくれています。私達もその様子を見て、さらにフィリピンの子どもたちに対する働きを続けていく力を受けています。

---

\* 毎月・ニュースレターを発行、全国のパートナー会員に発送いたしました。